

授業日時 2021年9月2日(木)第5校時

授業学級 1年D組

授業会場 美術室

授業者

指導教官

指導者

1 単元名 「見つめて描く」全12時間中第3時

2 本時の主眼

作品に色を塗り始めた生徒たちが、描いたモチーフにどうすれば立体感を表せるか考える場面で、水の加減によって異なる表現ができることを実際に試してみることを通して、モチーフの描き方や作品の雰囲気などのイメージを持つことができる。

3 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 立体感を出す方法を考える。	<p>◎立体感ってどうやって出すんだろう。</p> <p>◎光と影。</p> <p>◎影のでき方が大事な。</p> <p>◎物の下じゃないかな。机と接してるところ。</p> <p>◎モチーフそのものだと思う。</p> <p>◎両方に入れたらいいんじゃない。</p> <p>◎下に影が入ると、そこにあるって感じがする。でも立体感はあまりないかも。</p> <p>◎3つ目が一番立体的に見える。</p> <p>◎影の場所は分かったけど、どうやって塗ればいいんだろう。</p>	<p>「皆さんはこれから、前時までに描いてきたモチーフに色を塗っていきますが、そこで意識してみしてほしいのが、立体感についてです。」</p> <p>「立体感を出そうとするとき、どんな要素が必要だと思いますか。」</p> <p>※陰影のつけ方へと意識を向ける。</p> <p>「立体感を出すには、どこに影をつければいいでしょうか。」</p> <p>・下に影を入れたもの、モチーフそのものに影を入れたもの、両方に影を入れたものの図をそれぞれ提示。</p> <p>※最初の2つを順に提示し、両方に影を入れた場合の立体感に生徒が気付けるようにしてから3つ目を提示できるとよい。</p> <p>「どれが一番立体的に見えますか。」</p> <p>「場所だけわかって、難しいですよ。どのように塗ればいいのか、一緒に考えていきましょう。」</p>	5
	【学習課題】 明暗を表す技法を習得しよう。			

展開	3. 立体感を表現するための技法を知る。	<p>◎どんなふうに使えるのかな。</p> <p>◎すいとりは特に明るい部分に使えそう。</p> <p>◎明るいところに向かってぼかしていくのもいいかも。</p>	<p>「影と光の表現を助けてくれる技法をいくつか紹介していきます。今からその技法を実演しながら球体を描いていきます」【モニター, iPad】</p> <p>・にじみ, ぼかし, すいとり, ドライブラシ, 重色を実演。</p> <p>※影に黒を使わず, 影や光の色の選択肢が広がるようにする。</p>	10
	4. 技法の練習をする。	<p>◎ぼかして表現してみたけど, 一番暗いところは別の色も入れてもいいかも。</p> <p>◎にじみを使うとふんわりしていいな。</p> <p>◎はっきりした感じにしたい。ドライブブラシをやってみようかな。</p> <p>◎すいとりをうまく使うと光がきれいに出せるな。本番でも使ってみよう。</p> <p>◎球体の方はうまく描けたし, 下の影も描いてみよう。ぼかしを使うのがいいかな。</p>	<p>「実際に技法を試してみましょう。自分が立体感を表現するのに使ってみたい技法は見つかるでしょうか。」【練習用紙】</p> <p>「画用紙に描いてある丸に陰影をつけて, 球体にしてみましょう。塗ったらその下に使った技法の名前を書いてください。同じ技法を何回か試してもいいですよ。」</p> <p>※球体の下にできる影も必要に応じて描きこめるようにする。</p>	20
終末	5. 本時を振り返り, 次時へとつなげる。	<p>◎吸い取りを試したけど, 明るいところが目立ってよかったので, 本番でも使ってみようかな。</p> <p>◎黒以外の色を影にしようと思ったけど, 難しいな。本番では紺色にしたらどうだろう。</p> <p>◎にじみは色の混ざり具合が綺麗だったから使ってみたい。</p>	<p>「使ってみたい表現は見つかりましたか。」</p> <p>※練習用紙に, 使ってみたい技法やその理由を書けるようにする。</p> <p>・書いた内容を発表してもらおう。(2名ほど)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【本時の評価(評価する対象)】</p> <p>使いたい技法を通して作品のイメージを膨らませることができる。(練習用紙)</p> </div> <p>・片付けの指示を出す。</p>	10